

口腔顎顔面外科学特論 (安部貴大)

Advanced course of Oral and Maxillofacial Surgery (Takahiro Abe)

キーワード

- ①口腔顎顔面外科
- ②形態・機能障害
- ③再生医療
- ④細胞療法
- ⑤ドラッグデリバリーシステム

関連する学位授与方針

- ①
- ②
- ③

関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

授業概要

再建手技の進歩によって拡大手術が可能となり、口腔腫瘍などにおいては今なお手術に優る治療法は登場していない。しかし、今後非侵襲的治療がいかに発展しようとも、治療に伴う障害を回復・再生させることはいわば究極の目標といえる。昨今の再生医療の技術革新は目覚ましく、様々な疾患をターゲットとして応用されている。本授業では、既存の組織再生の概念の枠を超え、最新の再生医学研究の知見を学び、新たな再生医療の開発への理解を深める。

授業科目の学修目標

口腔顎顔面外科手術によって起こり得る形態および機能障害を理解し、現時点で対応可能な方法や支援策について学ぶ。最新の再生医療技術と、臨床応用に展開する方法・倫理規制などの知識を修得する。

授業計画

- ①口腔顎顔面領域の障害に関する概論 4コマ 安部貴大
 - ・外科手術に伴う形態・機能の障害
 - ・その他（顎関節疾患など）
- ②現行の支援策に関する概論 4コマ 安部貴大
 - ・口腔リハビリテーション、再建手術
- ③再生医療における倫理規範と法規 4コマ 安部貴大 田中香衣
 - ・特定認定再生医療等委員会と再生医療関連法
- ④再生医療技術各論 8コマ 安部貴大 小松紀子 高才東
- ⑤顎顔面領域への展開 10コマ 安部貴大 小松紀子 高才東
 - ・細胞内送達法の技術を応用した細胞療法

教科書および参考書

テキストブック再生医療～創る、行う、支える～第1版 一般社団法人日本再生医療学会（監修）

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

特に口腔顎顔面外科手術後に伴う障害と方策を理解し、再生医療の実施に関する法令、倫理の知識、細胞培養の操作手技の修得が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ①口腔顎顔面領域に起こる障害について理解する
- ②口腔顎顔面領域の障害への対応について理解し説明できる
- ③再生医療に関する法令、倫理規範を理解し説明できる
- ④再生医療を実施するにあたり、技術基盤や管理法を理解し説明できる
- ⑤再生医学研究に関する最新知見を習得し顎顔面領域への応用展開を立案する

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	30%	30%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・小テストは、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。6% \times 5回=30%
- ・レポートは、授業計画で行った講義について課題を提出する。6% \times 5回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後やカンファレンスで知識の理解度を判定する。2% \times 20回=40%

理想的な達成レベルの目安

新領域顎顔面再生医学特論の理想的な達成レベルは80%以上を求める。